

V 日高振興局

1. 重点プロジェクト【梅産地の競争力強化と労働力確保対策】

～援農者に梅のせん定研修会を開催～

みなべ町では、梅生産者の高齢化や担い手の減少等により、農繁期（収穫、剪定等）の労働力不足が問題となっている。

農業水産振興課では、みなべ町内の援農支援会社「アグリナジカン」（代表：山下丈太氏）や若手農家（4名）と連携し、援農者に梅のせん定技術や知識を習得させ、農家のせん定作業を支援してもらうため、11月2日、22日、12月7日の3回、みなべ町清川地区で梅のせん定研修会を開催した。

研修生は県内外出身の計5名で、いずれも梅に関する知識はほとんどなかった。

そのため、まず、和歌山の梅に関する座学を行い、次に園地でせん定の基礎技術を指導した。研修生は熱心に受講し、ある程度の技術や知識を身につけることができたと思われる。

研修生からは「せん定は難しいけどおもしろい。もっと経験を積んで早く一人前になりたい」との感想が聞かれた。



梅に関する座学



橘普及指導員による梅のせん定指導

2. ウスイエンドウ短節間新品種「光丸うすい」の導入に向けて

ウスイエンドウは日高地方の主要品目である。主力品種である「きしゅううすい」は草丈が高くなるため、収穫や整枝等の作業に労力がかかることが課題となっている。

このことから、農業水産振興課では、節間が短く草丈を抑えることが可能な有望品種「光丸うすい（育成者から品種登録出願公表中）」の導入による省力化を目指し、栽培展示ほの設置を管内2ヵ所（印南町、みなべ町）、試験栽培を管内9ヵ所（御坊市、みなべ町、日高川町）で行っている。

展示ほでは、暖地園芸センターやJAと連携し、12月3日からハウス栽培での調査を実施、生育状況や収量性について対照品種である「きしゅううすい」と比較を行っている。

12月の調査では、「きしゅううすい」に比べ、草丈は約3割低くなっており、栽培管理作業の省力化が期待できる。今後は栽培終了時まで調査を継続し、本品種の生育特性や収量性の把握を行うこととしている。

試験栽培はみなべ町のハウス栽培生産者を中心に行っており、各園地を巡回して生産条件ごとに生育状況を調査している。生産者からは、「草丈は低く、作業性がよい。」との感想をいただいている。

今後は、蓄積したデータを基に栽培技術の確立を図るとともに、現地検討会開催により、管内生産者への普及に取り組む。



展示ほの生育状況調査（印南町）



ウスイエンドウの生育状況（みなべ町[R3.12.22現在]）
「きしゅううすい（左）」と「光丸うすい（右）」